

## 作目：ホウレンソウ

生育ステージ	気象条件	高温により発生が懸念される障害被害 (赤太字は重要被害項目)	発生要因	予防対策	発生時の対策	補足等	参考情報	
発芽時	高温乾燥時	<b>発芽不良</b>	高温(25℃以上*1)で種の生理代謝が正常に進まなくなる 発芽に必要な水分が不足する	ハウス、雨よけ栽培の場合、屋根面に遮光率30～40%の遮光資材を使ってハウス内温度および地温を下げる*2 ハウス屋根面に散水チューブを設置してハウス内温度を下げる*2 灌水を適切に行う	現時点で有効な対策はなく、播き直す		*1 <a href="https://lib.ruralnet.or.jp/cgi-bin/ruraldetail2.php?DSP=taikeily070ly0701040.htm">https://lib.ruralnet.or.jp/cgi-bin/ruraldetail2.php?DSP=taikeily070ly0701040.htm</a> *2 <a href="https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/brand/attach/pdf/201023_3-1.pdf">https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/brand/attach/pdf/201023_3-1.pdf</a>	
	高温多湿時	<b>発芽不良</b>	高温で種の生理代謝が正常に進まなくなる 水分過多による酸素不足*3		現時点で有効な対策はなく、播き直す		*3 <a href="https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kikoguide/documents/20240606102354.pdf">https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kikoguide/documents/20240606102354.pdf</a>	
		立枯病	糸状菌（ピシウム属菌）による感染	連作を避ける 圃場の排水対策を行う *2 タチガレン液剤等の薬剤散布 *2 土壌伝染性病害のため、多発圃場では土壌消毒を行っておく *2		土壌消毒、太陽熱処理（ハウス栽培）などを行い次作に持ち越さない		*2 <a href="https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/brand/attach/pdf/201023_3-1.pdf">https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/brand/attach/pdf/201023_3-1.pdf</a>
生育初期	高温乾燥時	生育不良枯死	生育適温は10～20℃で、それ以上になると生育が遅延する*4 乾燥時には生長に必要な水分が取得できない	ハウス、雨よけ栽培の場合、屋根面に遮光率30～40%の遮光資材を使ってハウス内温度および地温を下げる*2, *4 ハウス屋根面に散水チューブを設置してハウス内温度を下げる*2 灌水を適切に行う	灌水を適切に行う		*4 <a href="https://lib.ruralnet.or.jp/cgi-bin/ruraldetail2.php?DSP=taikeil22lyly267009z.htm">https://lib.ruralnet.or.jp/cgi-bin/ruraldetail2.php?DSP=taikeil22lyly267009z.htm</a> *2 <a href="https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/brand/attach/pdf/201023_3-1.pdf">https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/brand/attach/pdf/201023_3-1.pdf</a>	
		<b>萎凋病</b>	糸状菌（フザリウム属菌）による感染	耐病性品種の利用 連作を避ける 土壌伝染性病害のため、多発圃場では土壌消毒を行っておく *2		発病適温は27～28℃ *2 耐暑性、萎凋病耐病性のある品種を利用する *2	耐病性品種については種苗会社各社のHPを参照 *2 <a href="https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/brand/attach/pdf/201023_3-1.pdf">https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/brand/attach/pdf/201023_3-1.pdf</a>	
		ホウレンソウケナガコナダニによる吸汁害	周年栽培、害虫発生消長の変化*3	本葉2葉期と4葉期の集中した薬剤散布、発生予測に基づく適正防除*3	殺虫剤散布			*3 <a href="https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kikoguide/documents/20240606102354.pdf">https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kikoguide/documents/20240606102354.pdf</a>
		アブラムシ類、ハダニ類による吸汁害、ヨトウガ類による食害	害虫発生消長の変化*4	防虫ネットの設置、薬剤散布	殺虫剤散布			*4 <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjaez/45/1/45_1_1/_pdf">https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjaez/45/1/45_1_1/_pdf</a>

2025年8月時点 農研機構調べ

## 作目：ホウレンソウ

生育ステージ	気象条件	高温により発生が懸念される障害被害 (赤太字は重要被害項目)	発生要因	予防対策	発生時の対策	補足等	参考情報
生育初期	高温 多湿時	生育不良枯死	生育適温は10～20℃で、それ以上になると生育が遅延する*5 水分過多による酸素不足	露地栽培の場合、圃場の排水対策を適切に行う 高畝にする	排水対策を講じる		*5 <a href="https://lib.ruralnet.or.jp/cgi-bin/ruraldetail2.php?DSP=taikeil22lyly267009z.htm">https://lib.ruralnet.or.jp/cgi-bin/ruraldetail2.php?DSP=taikeil22lyly267009z.htm</a>
		根腐れ病	糸状菌（アファノミセス属）による感染	連作を避ける 圃場の排水対策を行う タチガレン液剤等の薬剤散布 土壌伝染性病害のため、多発圃場では土壌消毒を行っておく*2		発病適温は23～27℃ *6	*6 <a href="https://www.takii.co.jp/tsk/bugs/asp/disease/konpu/">https://www.takii.co.jp/tsk/bugs/asp/disease/konpu/</a>
		ホウレンソウケナゴコナダニによる吸汁害	周年栽培、害虫発消長の変化*3	本葉2葉期と4葉期の集中した薬剤散布、発生予察に基づく適正防除*3	殺虫剤散布		*3 <a href="https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kikoguide/documents/20240606102354.pdf">https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kikoguide/documents/20240606102354.pdf</a>
		アブラムシ類、ハダニ類による吸汁害、ヨトウガ類による食害		防虫ネットの設置、薬剤散布	殺虫剤散布		*4 <a href="https://www.istage.ist.go.jp/article/jiaez/45/1/45_1_1/_pdf">https://www.istage.ist.go.jp/article/jiaez/45/1/45_1_1/_pdf</a>
収穫期	高温時	シロオビノメイガによる食害	周年栽培、害虫発消長の変化*3		殺虫剤散布		*3 <a href="https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kikoguide/documents/20240606102354.pdf">https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kikoguide/documents/20240606102354.pdf</a>
	高温 多湿時	とろけ	収穫前の灌水が多いことにより発生しやすくなる	草丈16cm以降は灌水を控える*2 出荷までは保冷庫で保管し、鮮度保持に努める			*2 <a href="https://www.maff.go.jp/i/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/brand/attach/pdf/201023_3-1.pdf">https://www.maff.go.jp/i/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/brand/attach/pdf/201023_3-1.pdf</a>

2025年8月時点 農研機構調べ